

令和元年

火災

*

救急

*

救助

の

概況

上越地域消防事務組合

石油コンビナート/化学プラント災害即応部隊「ドラゴンハイパー コマンドユニット」配備

「火災調査シミュレーションアプリの開発」で消防庁長官賞を受賞

そして、令和2年、新たに「上越地域消防局」として始動する。

目次

火災編

1 火災発生状況.....	2
2 火災の特徴.....	3
3 出火原因.....	5
4 火災による死傷者	6
5 損害額の推移.....	6
6 焼損面積の推移	7
7 住宅火災の状況	7
8 住宅用火災警報器	8
9 火災状況比較.....	11
10 管内地域別署所別火災状況比較	12

救急編

1 救急出動状況.....	13
2 救急搬送人員	15
3 5年間の推移	16

救助編

1 救助出動状況.....	17
2 地域別救助出動状況	18
3 地域別救助人員状況	19

火災編

1 火災発生状況

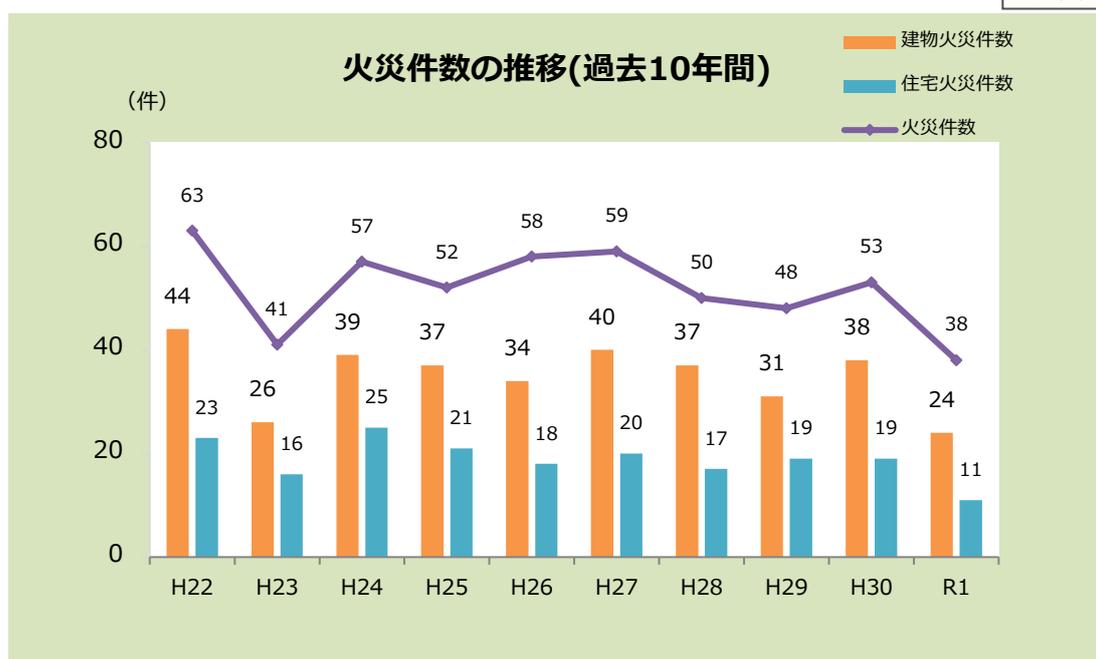
火災件数は38件

令和元年の火災件数は38件で、前年比で15件減少しました。そのうち建物火災は14件の減少となりました（1表、1図）。

1 表

火災発生状況					
	平成30年 (件)	割合 (%)	令和元年 (件)	割合 (%)	増 減
火災件数	53	100	38	100	▲15
建物火災	38	71.7	24	63.2	▲14
(住宅火災)	(19)	(35.8)	(11)	(28.9)	(▲8)
林野火災			1	2.6	1
車両火災	9	17.0	6	15.8	▲3
船舶火災			1	2.6	1
その他火災	6	11.3	6	15.8	0

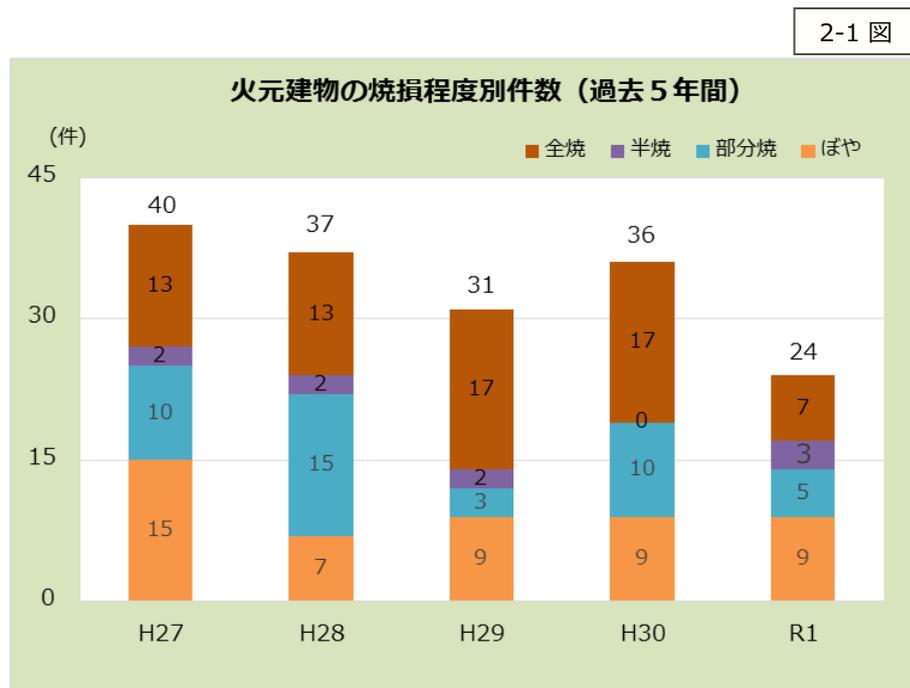
1 図



2 火災の特徴

火元建物の焼損程度別件数

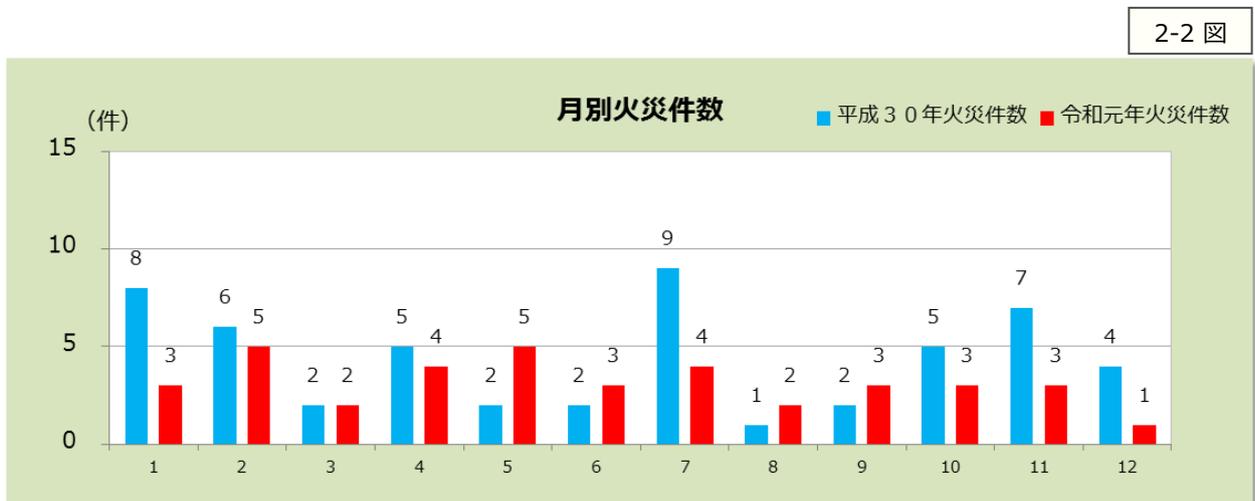
火元建物を焼損程度別にみると、ぼやが9件で最も多く、全焼は前年比で10件減少しました（2-1図）。



※「爆発」に該当するものを除く

月別火災発生状況

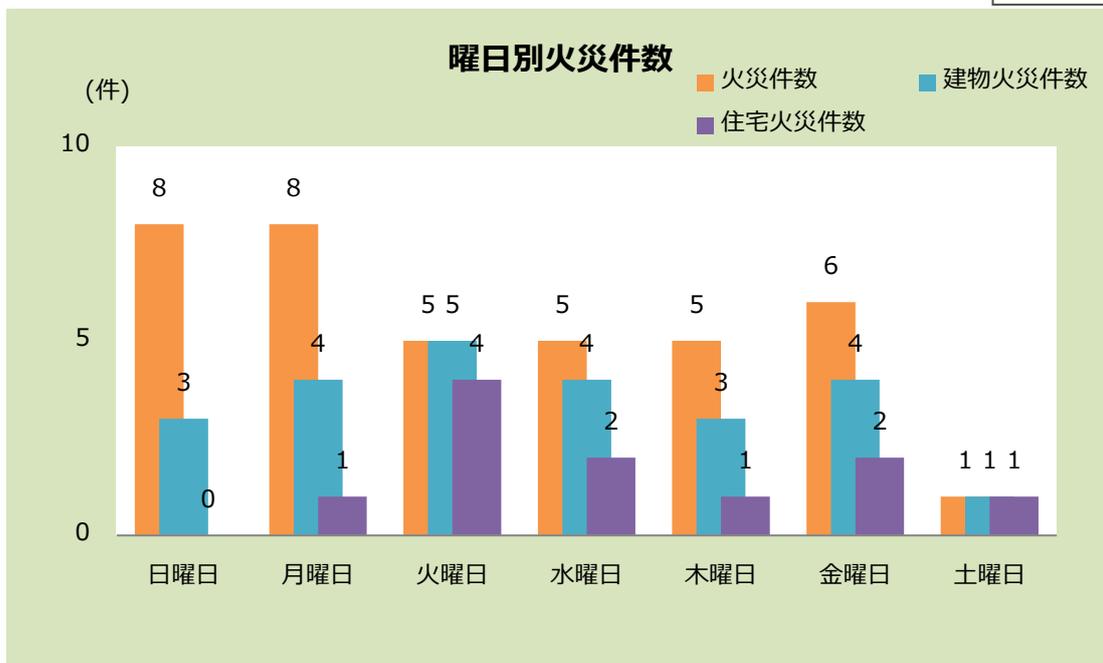
月別にみると、平均約3件で推移し、多い月で5件、少ない月は1件でした（2-2図）。



曜日別火災発生状況

曜日別にみると、日曜日と月曜日が最も多く8件の火災が発生しました（2-3図）。

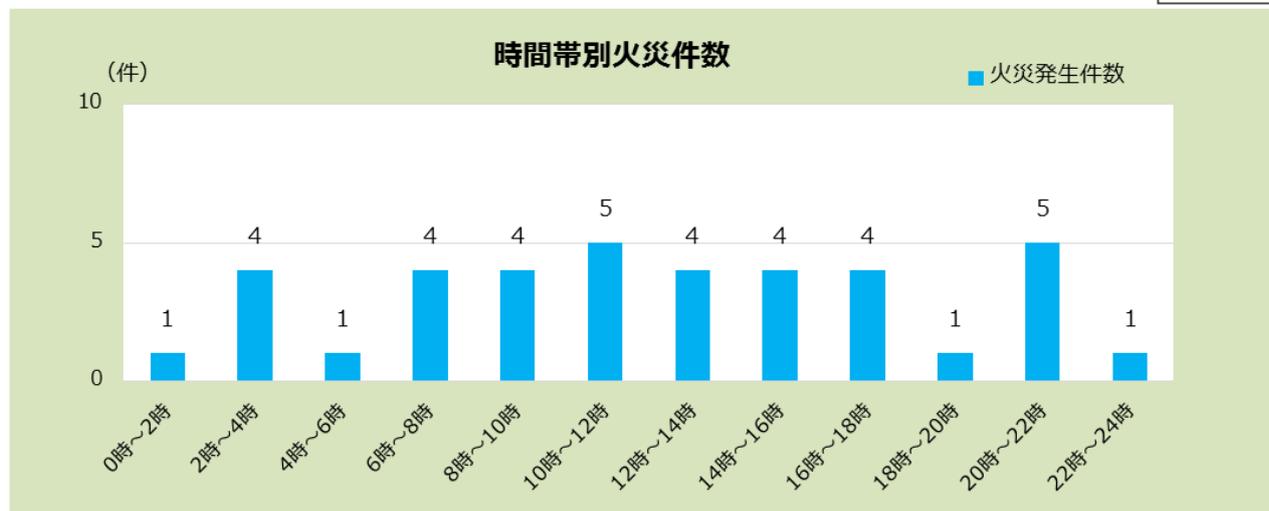
2-3 図



時間帯別火災発生状況

時間帯別にみると、6時から18時の昼間帯が25件、18時から6時までの夜間帯が13件と、昼間の火災件数が多い傾向でした（2-4図）。

2-4 図

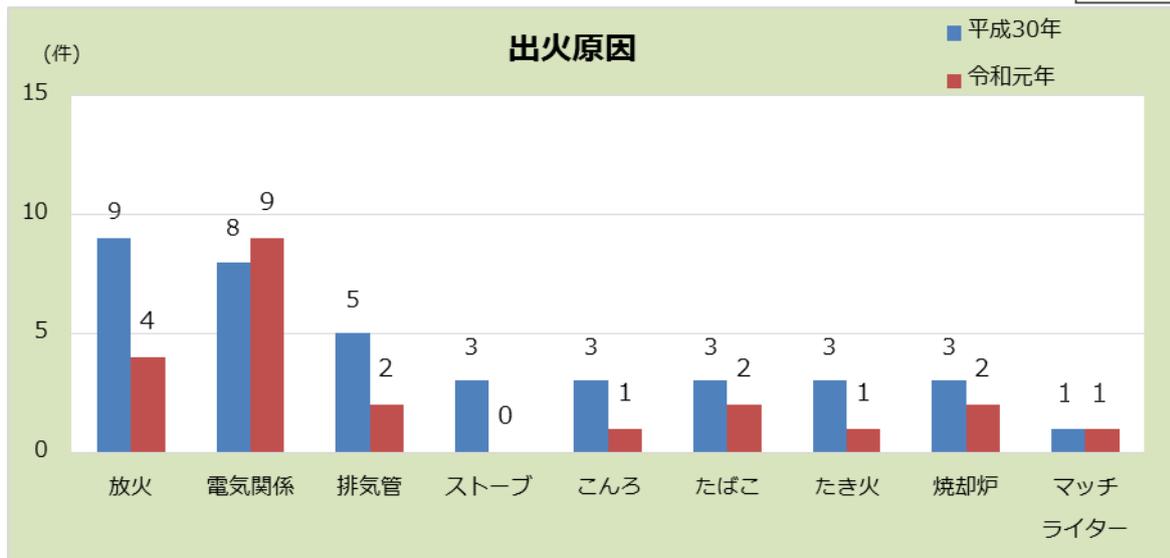


3 出火原因

出火原因は「電気関係」が1位

主な出火原因では、電気関係が最も多く9件、前年最多だった放火は4件でした。たばこ、排気管、焼却炉が2件で、ストーブ火災はありませんでした（3図）。

3 図



【火災原因の詳細】

■ 放火・放火の疑い	放火自殺	1件
	放火自殺以外	3件
■ 電気関係	電気配線の発熱、短絡等	6件
	コンデンサ	1件
	モバイルバッテリー	1件
	トラッキング	1件
■ 排気管	可燃物が高温部に接触	2件

4 火災による死傷者

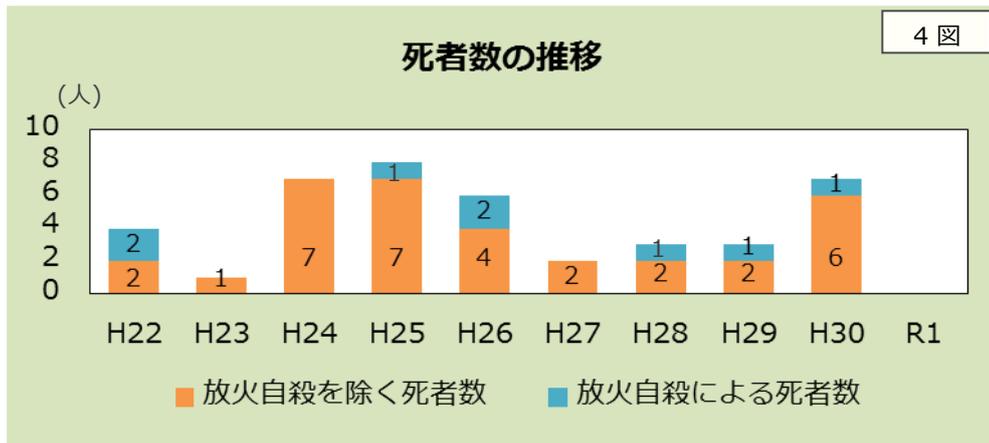
火災による死者はなし、負傷者は6人

火災による死者はなく、負傷者も6人と大幅に減少し、過去10年間で最少となりました（4表、4図）。

4 表

火災による死傷者				
	平成30年		令和元年	
		うち放火自殺者		うち放火自殺者
死者（人）	7	1		
負傷者（人）	20		6	

4 図

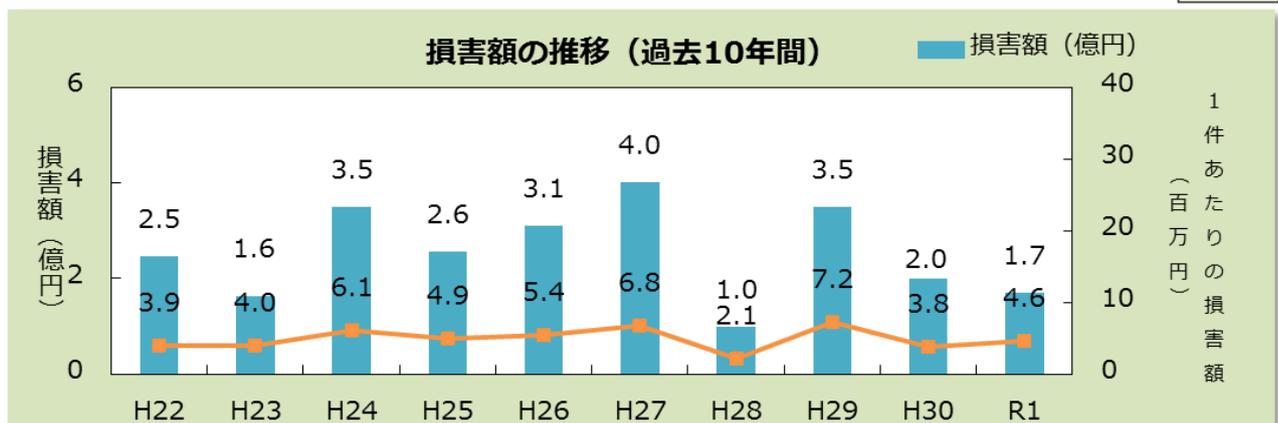


5 損害額の推移

火災による損害額の推移

火災損害額は1億7,460万円となり、過去10年の平均より大幅に減少しました（5図）。

5 図

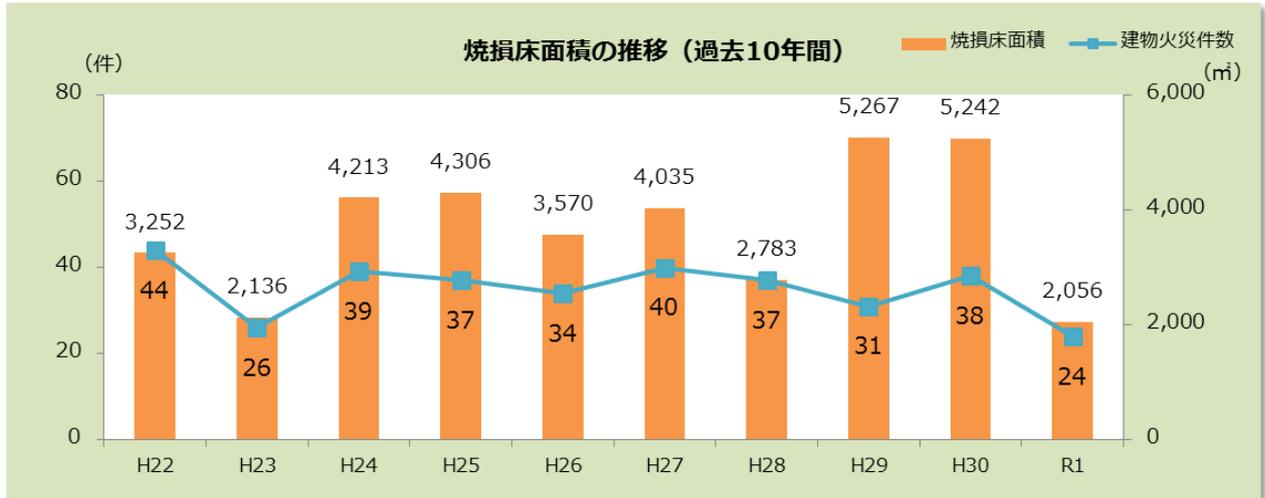


6 焼損面積の推移

焼損床面積は2,056㎡

焼損床面積は2,056㎡と過去10年で最小となり、建物火災1件あたりは85.7㎡です（6図）。

6 図



7 住宅火災の状況

住宅火災の損害状況

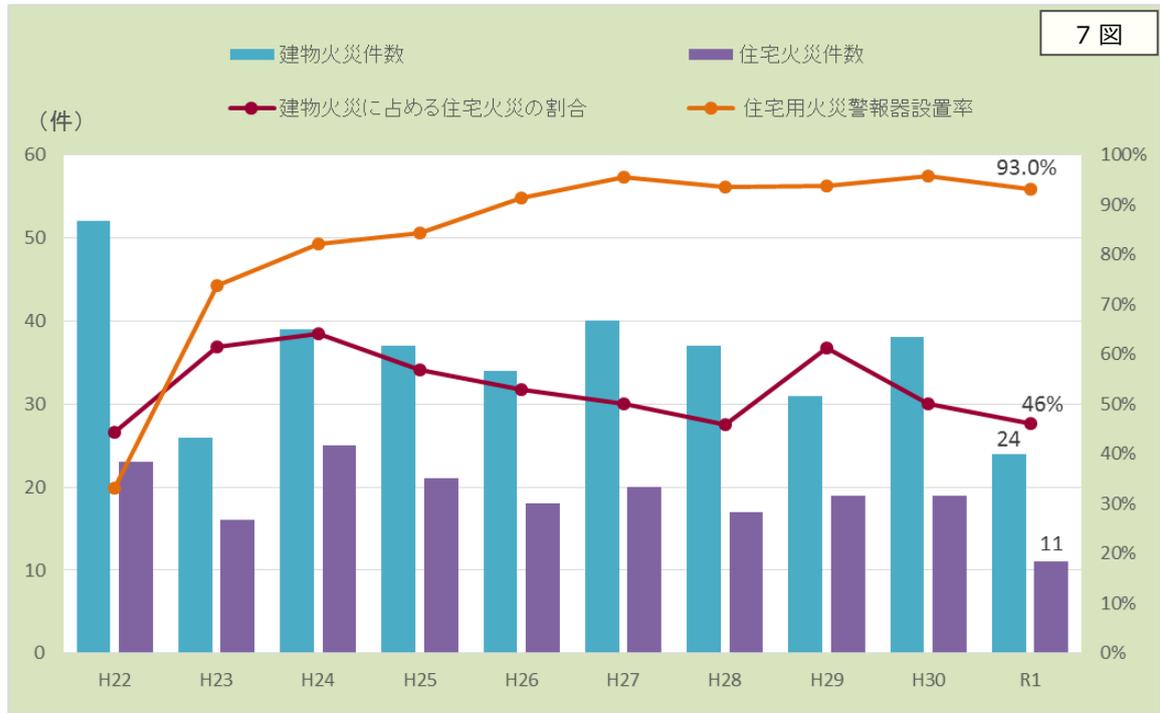
住宅火災件数と焼損棟数が大幅に減少しましたが、住宅火災1件当たりの損害額は平均を上回りました（7表）。

7 表

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	過去5年 平均	令和元年
建物火災件数	34	40	37	31	38	36	24
うち住宅火災	18	20	17	19	19	19	11
住宅火災割合	53%	50%	46%	61%	50%	52%	46%
焼損棟数	60	57	53	78	70	64	38
うち住宅火災	32	32	28	60	35	37	22
住宅火災1件あたり	1.8	1.6	1.6	3.2	1.8	2.0	2.0
建物火災損害額（千円）	306,463	393,646	100,227	330,567	199,335	266,048	153,491
うち住宅火災	100,255	54,354	67,750	172,048	81,700	95,221	98,365
住宅火災1件あたり	5,570	2,718	3,985	9,055	4,300	5,126	8,942

住宅火災件数の推移

建物火災に占める住宅火災の割合は50%前後で推移し、減少傾向にあります（7図）。



※住宅火災とは：専用住宅、共同住宅の住戸部分及び併用住宅（住居部分の面積が延べ面積の20%以上であるものに限る）の住宅部分から出火した火災をいう。

8 住宅用火災警報器

住宅用火災警報器の設置率

令和元年6月1日時点における住宅用火災警報器の設置率は93.0%、条例適合率は73.0%となっています（8-1表）。

8-1 表

住宅用火災警報器の設置率（令和元年6月1日現在）		
	設置率※1	条例適合率※2
上越地域消防	93.0%	73.0%
新潟県	86.5%	71.2%
全国	82.3%	67.9%

※1 設置率：火災予防条例において設置が義務付けられている住宅の部分（すべての寝室と寝室が2階にある場合は階段の上部）のうち、1か所以上設置されている世帯の全世帯に占める割合

※2 条例適合率：火災予防条例において設置が義務付けられている住宅の部分（すべての寝室と寝室が2階にある場合は階段の上部）のすべてに設置されている世帯の全世帯に占める割合

住宅用火災警報器を設置していたことで助かった事例(奏功事例)

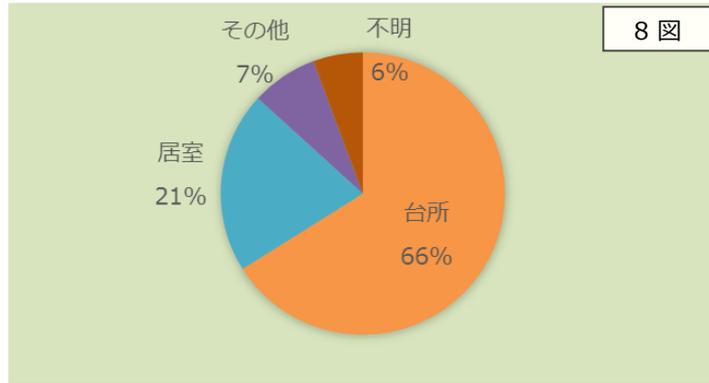
8-2 表

奏功事例件数						
	奏功事例 件数 (件)	被 害 程 度 (件)				
		被害なし	ぼ や	部分焼	半 焼	全 焼
平成18年	2	1	1			
平成19年						
平成20年	4	3				1
平成21年						
平成22年	4	2		1		1
平成23年	7	3	1	2		1
平成24年	8	4		1	1	2
平成25年	6	3	1	2		
平成26年	4	4				
平成27年	5	4	1			
平成28年	4	1	1	2		
平成29年	2	2				
平成30年	4	3	1			
令和元年	3	2				1
合 計 (件)	53	32	6	8	1	6
割 合 (%)	100.0	60.4	11.3	15.1	1.9	11.3

令和元年の主な奏功事例内訳			
発生年月	建物用途	被害状況	奏功内容
平成31年1月	共同住宅	被害なし	台所の反射式ストーブにマッチで点火した後、その場を離れ台所の住宅用火災警報器が作動し火災に気がついたもの。ストーブ上のやかんの水と水道水、風呂の水で消火したもの。
平成31年1月	専用住宅	被害なし	揚げ物を調理後、ガステーブルの火を消し忘れ放置したことにより鍋内の油が発火し、住宅用火災警報器が鳴動したためバスタオル等で消火したもの。
令和元年8月	専用住宅	全焼1棟 部分焼1棟	就寝中に階段に設置されている住宅用火災警報器の作動に気が付き火災を発見し、危険を感じ屋外へ避難したもの。

台所への設置も効果があります

統計を取り始めた平成18年以降、住宅用火災警報器が設置されていたことで火災を未然に防いだり、被害が少なくて済んだ事例のうち、約70%が台所に関する事案となっています（8図）。



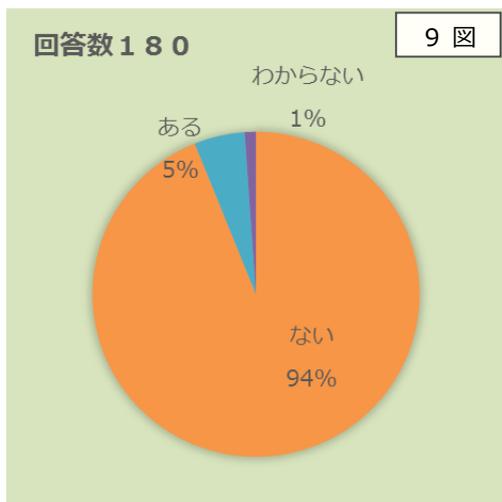
住宅用火災警報器は10年を目安に交換しましょう！

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の劣化や電池の寿命などで煙や熱を感知しなくなるおそれがあります。住宅用火災警報器は10年を目安に交換しましょう。

上越地域消防では令和元年5月からの1か月間、「住宅用火災警報器設置対策強化月間」とし、住宅用火災警報器の定期的な点検や交換などの維持管理を呼びかけるとともに、住宅用火災警報器の設置状況や維持管理状況等に関するアンケート調査を行いました。

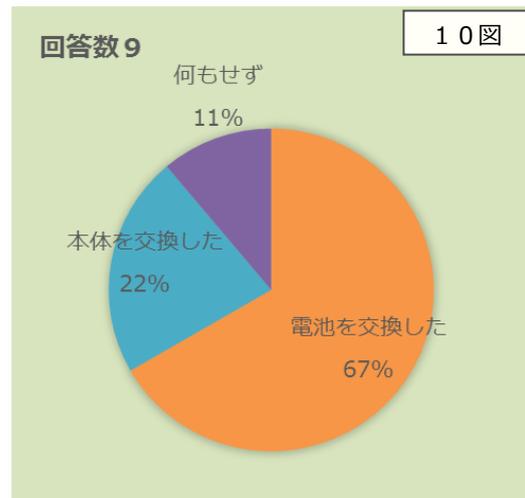
〈アンケート結果〉

電池切れになったものはありますか？（9図）



約9割の住宅はまだ電池切れになっていませんが、今後は電池切れ機器のさらなる増加が予想されます。

電池切れの際、どのように対応されましたか？（10図）



電池のみ交換した方が約7割、本体ごと交換した方は約2割です。本体も経年劣化の恐れがありますので、電池切れのタイミングで本体の交換を推奨しています。

9 火災状況比較

9表

区 分	年 別					過去10年 平 均
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	
火 災 件 数	59	50	48	53	38	51.9
建 物 火 災	40	37	31	38	24	35.0
うち住宅火災	20	17	19	19	11	18.9
住 設						
警 置						
器 状						
況						
設置あり (一部設置含む)	9	11	9	13	8	10.9
設置なし	7	4	8	5	2	6.6
不明	4	2	2	1	1	1.4
林 野 火 災	1	2	2		1	1.4
車 両 火 災	12	6	8	9	6	9.2
船 舶 火 災					1	0.1
そ の 他 の 火 災	6	5	7	6	6	6.2
焼 損 棟 数	57	53	78	70	38	60
り 災 世 帯	26	27	42	31	20	31
り 災 人 員	58	76	103	80	61	76
建物焼損床面積 (m)	4,035	2,783	5,267	5,242	2,056	3,686
建物焼損表面積 (m)	246	203	665	691	757	354
林野焼損面積 (a)	60	141	259		36	89
損 害 額 (千円)	404,553	103,868	345,603	202,131	174,602	255,748
死 者 合 計 (人)	2	3	3	7	0	4.1
(うち放火自殺者)	(0)	(1)	(1)	(1)	(0)	(0.8)
建 物 火 災	1	2	3	5		3.2
林 野 火 災						0.0
車 両 火 災	1					0.3
そ の 他 火 災		1		2		0.6
負 傷 者 合 計 (人)	11	12	10	20	6	11.7
建 物 火 災	10	8	7	17	3	9.7
林 野 火 災		1	1			0.4
車 両 火 災	1		1	1		0.4
そ の 他 火 災		3	1	2	3	1.2

10 管内地域別署所別火災状況比較

10 表

区分 市(地域)		火災件数		焼損棟数		り災世帯数		死傷者数 (死者数)		建物焼損 床面積 (㎡)		損害額 (千円)		出火率 ※
		H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	R1
合 計		53	38	70	38	30	20	27(7)	6(0)	5,242	2,056	202,131	174,602	1.7
上 越 市	旧上越市	26	18	42	18	18	9	18(6)	2(0)	1,982	643	93,150	66,074	1.4
	南地区	19	12	30	11	15	3	12(3)	2(0)	598	118	24,851	38,248	1.4
	北地区	6	5	10	7	3	6	6(3)		1,378	525	68,184	27,816	1.2
	高土地区	1	1	2						6		115	10	6.7
	安塚区	2	1			1		1				352		4.5
	浦川原区	1	1	4	2	2	1			232	157	5,236	2,571	3.1
	大島区	1										34		
	牧区													
	柿崎区	3	1	1	1			1			61	95	16,046	1.1
	大潟区	4	4	4	2	1	1	1		206		6,251	15,463	4.3
	頸城区	3	2	6	8	2	7	1	1	1,226	545	20,819	52,109	2.1
	吉川区		1										242	2.5
	中郷区		2		2						102		1,177	5.5
	板倉区	3		2		1		3				360		
	清里区													
	三和区	1										1		
	名立区													
	小 計	44	30	59	33	25	18	25(6)	3	3,646	1,508	126,298	153,682	1.6
妙 高 市	新井地域	6	4	10	2	5	2	2(1)	2	1,579	423	75,609	18,208	1.7
	妙高原地域	2		1						17		209		
	妙高地域	1	4		3				1		125	15	2,712	11.2
	小 計	9	8	11	5	5	2	2(1)	3	1,596	548	75,833	20,920	2.5
上越南消防署	19	12	30	11	15	3	12(3)	2(0)	598	118	24,851	38,248	1.4	
上越北消防署	9	7	16	15	5	13	7(3)	1(0)	2,604	1,070	89,003	79,925	1.3	
新井消防署	9	6	12	4	6	2	5(1)	2(0)	1,579	525	75,969	19,385	1.7	
頸北消防署	7	6	5	3	1	1	2		206	61	6,346	31,751	2.6	
頸南消防署	3	4	1	3				1(0)	17	125	224	2,172	4.9	
東頸消防署	4	2	4	2	3	1	1		232	157	5,622	2,571	2.9	
高土分遣所	2	1	2						6		116	10	0.9	
名立分遣所														

※出火率：人口1万人あたりの出火件数

参考：平成30年出火率 全国2.97 新潟県 2.50

救急編

1 救急出動状況

救急出動件数は9,577件

令和元年の救急出動件数は9,577件で、前年比で15件減少しています。1日平均26.2件、約55分に1回の割合で救急車が出動したことになります（1-1表）。

1-1 表

事故種別救急出動件数			
	平成30年（件）	令和元年（件）	増 減（件）
急 病	6,072	6,097	25
一 般 負 傷	1,480	1,488	8
交 通 事 故	488	480	▲8
労 働 災 害	127	127	0
運 動 競 技	91	81	▲10
自 損 行 為	83	72	▲11
加 害	19	27	8
火 災	18	6	▲12
自 然 災 害	0	6	6
水 難 事 故	13	5	▲8
そ の 他	57	49	▲8
転 院 搬 送	1144	1139	▲5
合 計	9,592	9,577	▲15

月別救急出動状況

月別の救急出動件数は、8月が最も多く900件以上の出動がありました（1図）。

1 図



管内地域別署所別救急出動状況

上越市への出動が7,933件で全体の82.8%を占めており、署所別では上越南・上越北消防署の出動が合わせて5,535件と全体の57.8%となっています（1-2表）。

1-2 表

			救急事故種別												
			合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他
合計			9,577	6	6	5	480	127	81	1,488	27	72	6,097	1,139	49
上越市	旧上越市	南地区	3,475	2	1		194	33	27	476	11	30	2,204	468	29
		北地区	1,793		1	2	112	36	17	276	5	7	1,176	156	5
		高土地区	39							9		1	29		
		安塚区	172			1	1	1	1	41		1	93	33	
		浦川原区	154				14	1		24	1	2	88	24	
		大島区	65				4	2		12			41	5	1
		牧区	84				7			20			56	1	
		柿崎区	510		2	1	19	4	1	60		2	344	74	3
		大湍区	368	1		1	15	12	1	53	1	3	248	29	4
		頸城区	300	1			13	9	2	41	1	2	225	4	2
		吉川区	145				6	3	3	19	1	2	96	14	1
		中郷区	124				6	1	5	24		2	82	4	
		板倉区	232				6	4	3	36		4	149	30	
		清里区	111				3	1	1	10			74	22	
		三和区	188		1		5	3	2	27	1	1	131	16	1
		名立区	173				2	3		26		2	126	13	1
		小計	7,933	4	5	5	407	113	63	1,154	21	59	5,162	893	47
妙高市	新井地域	1,076	2	1		45	7	7	171	3	9	670	160	1	
	妙高原地域	380				19	3	8	120	2	1	152	75		
	妙高地域	180				6	3	3	41	1	3	111	11	1	
	小計	1,636	2	1		70	13	18	332	6	13	933	246	2	
他市町村			8				3	1		2		2			
上越南消防署			2,859	2	1	1	156	28	29	413	11	23	1,850	319	26
上越北消防署			2,676		2	2	157	47	18	380	6	12	1,731	312	9
新井消防署			1,481	3	1		61	14	15	245	3	15	922	201	1
頸北消防署			923	1	1	2	37	19	3	118	2	7	613	112	8
頸南消防署			513				20	4	10	146	3	4	245	80	1
東頸消防署			391				19	4	3	72	1	3	230	58	1
高土分遣所			505		1		21	7	2	75	1	6	346	44	2
名立分遣所			229				9	4	1	39		2	160	13	1
合計			9,577	6	6	5	480	127	81	1,488	27	72	6,097	1,139	49

2 救急搬送人員

救急搬送人員は、9,142人

令和元年の救急搬送人員は9,142人で、高齢者が68.4%を占めています（2表）。

2表

救急搬送人員								
	新生児 (人)	乳幼児 (人)	少年 (人)	成人 (人)	高齢者 (人)	高齢者の割合	合 計	割合 (%)
						(%)		
旧上越市	19	186	165	1,368	3,263	65.2	5,001	54.7
安塚区		5	1	27	133	80.1	166	1.8
浦川原区		1	1	33	117	77.0	152	1.7
大島区		1	1	12	48	77.4	62	0.7
牧区		3	2	9	64	82.1	78	0.8
柿崎区		15	3	91	392	78.2	501	5.5
大潟区		9	6	118	220	62.3	353	3.9
頸城区	1	8	5	62	218	74.1	294	3.2
吉川区		3	4	24	105	77.2	136	1.5
中郷区		3	3	30	83	69.7	119	1.3
板倉区		7	5	48	164	73.2	224	2.4
清里区		5	2	14	85	80.2	106	1.2
三和区		6	2	35	140	76.5	183	2.0
名立区		2	1	28	136	81.4	167	1.8
新井地域		32	26	219	763	73.4	1,040	11.4
妙高高原地域		4	24	135	212	56.5	375	4.1
妙高地域		5	10	54	110	61.5	179	2.0
他市町村				2	4	66.7	6	0.1
合 計	20	295	261	2,309	6,257	68.4	9,142	100

※年齢区分

新生児：生後28日未満

乳幼児：生後28日～7歳未満

少年：7歳以上～18歳未満

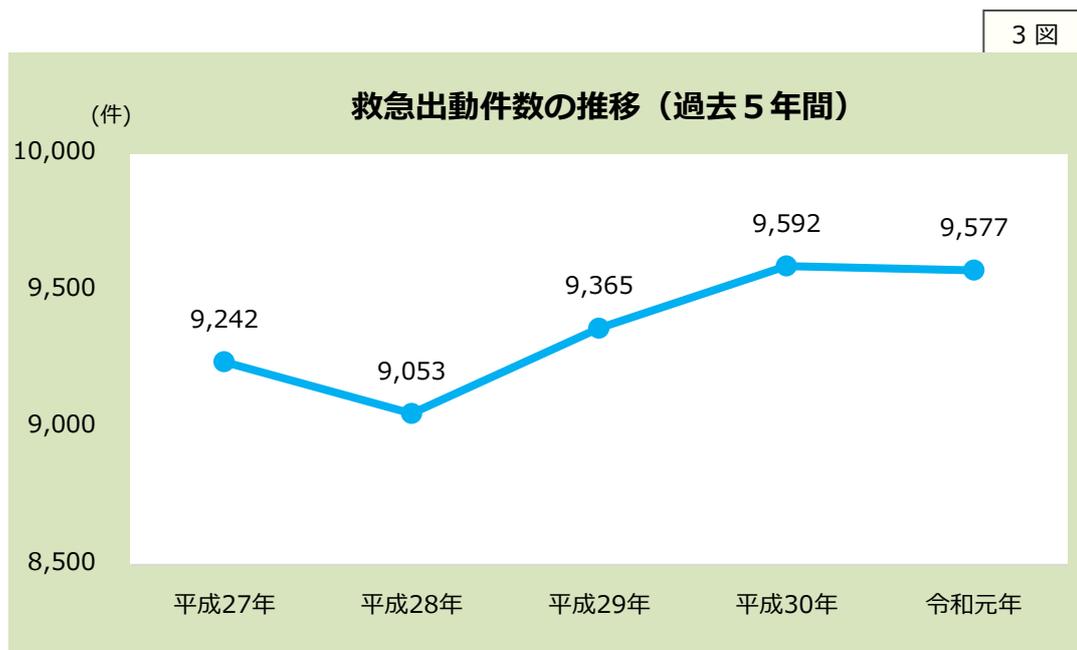
成人：18歳以上65歳未満

高齢者：65歳以上

3 5年間の推移

救急出動件数及び傷病程度別救急搬送人員の推移

最近5年間の救急出動件数の推移をみると、平成28年に一時的に減少しましたが、平成30年、令和元年は9,500件を超えています（3図）。



救急搬送人員は年々増加傾向にあり、平成30年、令和元年は9,000人以上の方を医療機関へ搬送しています。

3 表

	（人）				
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
軽 症	3,949	3,931	4,203	4,189	4,160
中等症	3,502	3,467	3,519	3,524	3,750
重 症	1,013	946	1,010	1,071	974
死 亡	251	215	227	251	256
その他	1	1			2
合 計	8,716	8,560	8,959	9,035	9,142

※傷病程度

- 軽 症 : 入院を要しないもの
- 中等症 : 21日未満の入院を要するもの
- 重 症 : 21日以上入院を要するもの
- 死 亡 : 初診時死亡が確認されたもの
- その他 : 医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

救助編

1 救助出動状況

救助出動件数は38件

令和元年の救助出動件数は38件で、前年比で7件減少しています。また、活動件数は27件で前年比で2件増加しています（1表）。

1表

救助出動状況						
事故種別	出動件数(件)			活動件数(件)		
	平成30年	令和元年	増減	平成30年	令和元年	増減
火災	2		▲2	2		▲2
交通事故	20	22	2	7	14	7
水難事故	9	3	▲6	6	2	▲4
自然災害	1	1	0			0
機械事故	4	3	▲1	3	2	▲1
建物等事故	2	1	▲1	1	1	0
ガス酸欠事故			0			0
破裂事故			0			0
その他事故※	7	8	1	6	8	2
合計	45	38	▲7	25	27	2

※「その他事故」：山岳事故、転落事故など



2 地域別救助出動状況

2表

地域別救助出動件数											
		救助事故種別（件）							出動件数（件）		増減
		火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物等事故	その他事故	令和元年	平成30年	
上越市	旧上越市		9	1		2	1		13	22	▲9
	安塚区								0	0	0
	浦川原区		1						1	0	1
	大島区								0	0	0
	牧区		3						3	2	1
	柿崎区		2					1	3	1	2
	大潟区			1		1			2	1	1
	頸城区								0	1	▲1
	吉川区		2						2	1	1
	中郷区							1	1	2	▲1
	板倉区								0	2	▲2
	清里区								0	0	0
	三和区			1					1	1	0
	名立区		1						1	0	1
	小計		0	18	3	0	3	1	2	27	33
妙高市	新井地域		2		1				3	5	▲2
	妙高高原地域		2					1	3	2	1
	妙高地域							4	4	4	0
	小計		0	4	0	1	0	0	5	10	▲1
他市町村								1	1	1	0
合計	令和元年	0	22	3	1	3	1	8	38	45	▲7
	平成30年	2	20	9	1	4	2	7	45		
増減		▲2	2	▲6	0	▲1	▲1	1	▲7		

3 地域別救助人員状況

3表

地域別救助人員											
		救助事故種別（人）							救助人員（人）		増減
		火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物等事故	その他事故	令和元年	平成30年	
上越市	旧上越市		6			2	1		9	9	0
	安塚区								0	0	0
	浦川原区								0	0	0
	大島区								0	0	0
	牧区		1						1	2	▲1
	柿崎区							1	1	1	0
	大湊区								0	2	▲2
	頸城区								0	0	0
	吉川区		1						1	1	0
	中郷区							1	1	0	1
	板倉区								0	1	▲1
	清里区								0	0	0
	三和区								0	0	0
	名立区		1						1	0	1
	小計		0	9	0	0	2	1	2	14	16
妙高市	新井地域		1						1	3	▲2
	妙高高原地域		3					1	4	1	3
	妙高地域							2	2	4	▲2
	小計		0	4	0	0	0	0	3	7	8
他市町村								1	1	0	1
合計	令和元年	0	13	0	0	2	1	6	22	24	▲2
	平成30年	0	11	1	5	0	2	5	24		
増減		0	2	▲1	▲5	2	▲1	1	▲2		



Joetsu Area Fire Dept.